

「万人のための教育」を目指した教育協力研究に期待する

鳴門教育大学教員教育国際協力センター
所 長 齋 藤 昇

21世紀に入り、社会の国際化が急速に進む中、教育においても地球的な規模での相互協力が要請されている。

鳴門教育大学教員教育国際協力センターは、平成17年4月に開発途上国に適した国際教育協力の計画・実施・評価に係る研究・開発、国際的な視野を持った人材の養成を目的として設置されたものである。本センターは、「理数科教員養成研究」「IT教育人材養成研究」「派遣人材養成・事業評価研究」の3分野で構成されており、今後開発途上国からの協力要請がますます増加すると思われる分野の研究・開発、協力体制の構築等を柱としている。

本学は、教員養成系大学であり、国内の教員養成・現職教員の教育はもちろんのことであるが、世界の教育に貢献することも責務と考えている。

本学は、平成10年から大学として国際教育協力に着手し、これまでの間に、ラオス、南アフリカ、タイ、アフガニスタン、エチオピアの5カ国の教育協力を行ってきた。さらに平成18年6月からは、大洋州9カ国の教育協力をを行う予定である。開発途上国からの教員研修員受け入れにおいては、本学教員、他大学教員、県市町村教育委員会、国公立学校園教員等の協力をいただきながら、教育実践に根付いた教育協力を行ってきた。現地での教員研修においては、当該国の教育機関・教員等と連携を図りながら、地域の教育事情に適した教育方法・技法の開発・普及を進めてきた。そこでは、大きな研修成果が得られているが、同時に多くの研究課題が山積している。例えば、国毎に社会環境や教育環境が異なっており、制約の多い教育事情の中で、当該国の教育の質を一層向上するにはどのような方略を用いればよいか、研修内容を全土に普及・定着するにはどのような方略を用いればよいか、教育協力の成果をどのようにして評価すればよいか等々である。

一方、センターの設置に伴って外国人客員研究員招へい制度が設けられ、それによってアジア、アフリカ等で活躍している先導的研究者と世界的な視点から国際教育協力についての研究交流や共同研究ができるようになり、地球規模での共同研究体制も充実しつつある。

本学は、これまでの協力経験を通して、開発途上国の教育協力に関する専門的な知識、教育の質の向上策、教員の資質・能力の向上策等に対する優れた識見を有する教員が多いと思われる。それらの叡智を結集することによって、教育協力のさらなる充実・発展が期待できる。

本センター紀要「国際教育協力研究」は、これらの状況のもとに、国際教育協力を進めるに当たって、協力内容が一層充実・深化し、効果あるものになるための研究交流・研究開発を行うことを目的として創刊したものである。

このセンター紀要が、本センターのますますの発展に寄与するとともに、「国際社会の発展と平和」「万人のための教育」「世界の子どもの健やかな成長」を実現するために役に立つことを心から願うものである。

(平成18年3月)